

会 議 録

会議の名称	第 3 回飯塚市男女共同参画推進委員会
開催日時	令和 7 年 8 月 28 日（木）14：00～15：45
開催場所	飯塚市役所本庁 4 階 入札室
出席委員	坂無淳委員、吉岡和子委員、寺山治委員、須藤明委員、 戸畑典子委員、平嶋穂積委員、岡松美千代委員、矢野由香委員、 末清淳子委員、野田鹿江委員、篠崎光寛委員
欠席委員	松本登美子委員、吉原文明委員、道園亜希委員
事務局職員	男女共同参画推進課長、企画担当主査、事業係長
アドバイザー	特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所
会議内容	議題 (1) 男女共同参画に関する市民意識調査票（案）について (2) 女性の労働状況に関する事業所調査票(案)について (3) 令和 7 年度提言書について (4) その他（報告事項） （1）男女共同参画に関する市民意識調査票（案）について 事務局 <資料 1-1、1-2 により前回の提案から変更している部分について 説明> 事務局 問 13 の中で「あなたは男性の 8 割以上が育児休業などを取得しない（できない）理由は何だと思えますか。」とあるが、これは令和 6 年度雇用均等基本調査の男性育児休業取得率の結果を受け、「男性の約 6 割が」に修正したい。 委員 前回分から修正したと説明があったが、調査票には修正が必要な箇所があると思う。問 15-2 で「7. 世間体が悪いから」を削除し、

「11. 相談すると、」を削除したとのことだったが、問 16-2、問 18-2 で同様の選択肢が残っているので修正が必要だと思う。

また、問 16-2 と問 18-2 で選択肢がちょっとずつ違っているが、揃えなくていいのか。問 16 にあって問 18 にない選択肢があるが、これは必要ないから外しているのかどうか確認したい。問 16-2 では「11. 相談相手の言動で自分が不快な思いををすると思ったから」になっているが、問 18-2 では、「8. 相談することによってさらに不快な思いをさせられると思ったから」となっている。この選択肢の違いは揃えなくていいのか。

事務局

問 18 と問 19 は、悩みや困り事についての設問で、福岡県の意識調査を参考に新たに加えた設問である。問 16-2 と問 18-2 の選択肢が一致していない点については、県の調査の選択肢に倣っているためである。

委員

問 16-2 と問 18-2 は、選択肢が重なっているので、問 16-2 を問 18-2 にしてはどうか。問 15-2 と問 16-2 も同じようになっている。

事務局

先ほど指摘された問 18-2 の選択肢が同じようになっている点については、分析の関係もあると思うので、また事業者と相談をさせていただければと思う。

事務局（アドバイザー）

先ほど指摘された箇所については、やはり過去の調査からの推移を見るという意味であり大幅な選択肢の変更は、問 15-2 や問 16-2 についてはしない方が良いということと、DV やセクハラに関する選択肢には、例えば自責感を感じてなどの特有の項目が入っている。できればこのままの方が良いと思っている。

委員

問 2 の家庭生活や子どもの育て方について、男女の役割について聞く設問で、【現在「配偶者・パートナー(事実婚を含む)と同居している方」にお尋ねします。】というのは、あくまでも異性のパートナーという捉え方なのか、同性のパートナーと暮らしている人は答えないということになるのか。

事務局

パートナーという表現にしているので、相手が女性であっても男性であっても、パートナーという位置づけだと考えている。男性同士や女性同士でも回答していただきたい。

委員

男性同士のパートナーで暮らしている人も回答が男性になってしまうということではないのか。

委員

問 2 で、選択肢の「左記以外」に該当するのは配偶者・パートナーと同居していない人で、その人がこの選択肢に付けていくという認識でよいのか。「左記以外」の設定の理由をもう一度教えていただけたらと思う。

事務局

「左記以外」については、この設問を配偶者やパートナーがいる人に限定したことで、パートナーとは同居しているけれども、選択肢エ.「育児・子どものしつけ」は子どもがいない等の理由で自分には当てはまらないという人や、選択肢オ.「病人・高齢者の世話（介護）」は現在の自分の世帯には関係がないと感じている人も「左記以外」になるのではないかと考えている。選択肢について「該当しない」とする案もあったが、様々な考え方により自分には当てはまらないと思った人も「左記以外」を選べるようにこのような表現を検討した。配偶者やパートナーと同居していない人はこの設問に答えなくてよいということになる。

委員

同居していない人は答えなくてよいということが分かりにくいのではないか。

事務局

同居していない方は、問 3 へ進めるよう、説明を追加したい。

委員

まず同居しているかどうかを聞いて、同居している人は問 2 へ、同居していない人は問 3 へという感じになるとよいと思った。設問が

増えることになるが、まず問 1 で答えた後に、いきなり問 2 で分岐が来ると混乱しそうだという印象だ。

委員

18 ページの回答者ご自身のことについての設問で、婚姻関係のところに、配偶者がいる人には同居しているかどうかを加えて尋ねれば、ここで区別ができるのではないかと思った。婚姻関係の選択肢において配偶者がいるという表現だけでいいのか、配偶者・パートナーを含むという表現をしなくていいのかと思った。

委員

もう一度、問 2 を【現在「配偶者・パートナー(事実婚を含む)と同居している方」にお尋ねします。】と限定した理由を説明してほしい。

事務局

前回の提案では、「あなたのご家庭では男女の役割分担はどのようになっていますか（なっていましたか）。」と尋ねていた。この段階では（なっていましたか）と過去のことについても尋ねているので、配偶者が現在いない人や、現在は子どもが自立して家を出た人でも答えていただくようになっていた。さらに前は「配偶者(パートナー)や子どもがいない人も一般的にどう思いかお答えください」と記載し、全員に答えていただくよう補足説明していた。しかし、過去にどうだったか、またはいないけれどもどう思うかについて尋ねるよりも、現状どうなっているかについて答えていただく方がいいのではと考え、現在配偶者やパートナー(事実婚を含む)と同居している人に限定した設問に変更した。他市の同様の調査においても、このように限定した聞き方をしているところが複数あったので、参考にした。

委員

確かに一般的な話と現実の話があって、また現実の話の中にも自分が子どもだったときに自分の親がどうしていたかという話と、自分が結婚して、自分が今どうしているかという話もあるので、尋ねていることが三つぐらいある。確かに一番いいのは分けて全部聞くのがいいけれども、それは難しい。今回は配偶者（パートナー）と同居している人のみを対象とすると、回答する人は少ないと思う。半分ぐらいの人がまず答えない感じになるのではないかな。場合によっ

ては、これが最初の設問でなく、もっと後ろの方にあってもいいのかなと思った。この設問にいきなり多くの人が答えないというのが最初（問 2）にくるのはどうかなと思った。

委員

今回の調査では、どのように対象者数を決めるようにするのか。割合を決めたらその中で回答が出るかもしれないけれど、決めなかったら単身者ばかりが無作為に抽出されたりして偏ることもあるのではないかと思った。

事務局

18 歳から 20 代、30 代、40 代、50 代、60 代、70 歳以上ということで、六つの年齢階層に分けて階層ごとに性別の人口割合に応じて、500 人抽出する予定としている。各 500 人ずつとし、年齢は人口比率とは一致しない。

委員

設問の指示の矢印をなくしたといわれたが、見ていくと、分岐がわかりにくいと思った。指示の矢印はあった方がいいと思う。このままでは途中で回答をやめる人が多くなりそうなので、矢印をもっと増やした方がいいと思った。矢印があることで回答を誘導しているということにはならないと思ったが、そういう意見があったのか。

事務局

例えば問 15-1 では「誰にも相談しなかった」という選択肢に四角い枠をつけて付問へつながる矢印を記載している。選択肢「1. 誰にも相談しなかった」を枠で囲むことで目立ち、回答を誘導しているような印象を受けるのではという意見があって今回の提案では枠線や矢印を外した。委員の意見を伺いたい。

委員

そこは事務局で検討してほしい。

事務局

先ほど、付問にいかない人も次にどこに行くかがわかりにくいのご意見があったので、付問に行く場合と行かない場合両方に矢印や案内を記載すれば、選択肢の誘導という印象は与えないと思うので、記載の仕方を検討したい。

(2) 女性の労働状況に関する事業所調査票(案)について

事務局

＜資料 2-1、2-2 により前回の提案から変更している部分について説明＞

委員

資料 2-1 の 2 ページの間 3-2 で 9 女性管理職のモデル例が少ないからとあるが、このモデルの例の意味合いは何か？

事務局

女性管理職のモデル例が少ないというのは、職場におけるロールモデル、いわゆる先輩で、管理職になられているような女性が少ない企業もあるかと思うので、ロールモデルと考えていただけたらと思っている。

委員

ロールモデルのことであればもう少しわかりやすい日本語にした方がいいと思った。例えば模範的な人物というのが一般的だと思う。

委員

この選択肢は前からあったのか。ロールモデルではだめなのか。一般の人はわかりにくい。ここはモデル例という表現を何かに変えることを検討してほしい。

事務局

検討したい。

委員

問 3 で女性管理職がいる事業所で割合を計算してもらって、その次はその中で 10%未満のところに回答してもらうことになっている。そうすると 0%のところは問 4 に行くように読み取れる。10%以上の事業所は問 3-2 には答えなくていいということか。

また、問 4「今後、自社の女性管理職割合を増やしたいと思いますか。」という設問については、もしかしたら女性管理職がたくさんいる事業所が回答する場合に、もう十分いるから選択肢「3. 増やしたいとは思わない」を選択する可能性がある。問 4-1 でその理由を尋ねているが、そこの流れがわかりづらいと気になった。

選択肢「1.増やしたいと思う」では、なぜ増やしたいと思うのかという理由も知りたいと思った。

委員

問 3-2 はわかりにくくて回答する会社としない会社が 0%のところで見られると思った。

また、なぜ 10%で線引いてるのか。50%以下とか 30%以下でいいのになぜ 10%なのかと思う。

事務局

問 3 から問 4 にかけて、もう少しわかりやすいような形で整理していきたいと思う。10%に定めている理由について、手元に資料がなく今お答えすることが難しい。改めて確認したいと思う。

委員

私は前回この問 4 がいるのかという意見を出した。これは女性管理職を増やすことが企業にとってどういいのかということも含めて企業のあり方とも関係していそうなので、増やすのが当たり前という設定なら、増やすためにどうしたらいいのかという質問にすべきだろうと思っていたので、この設問は必要なのかという意見を出した。この設問を残したいということであればどんなふうに聞いたらいいのかという観点で考え、増やしたいと回答した事業所に対し、増やしたい理由も聞いたらどうかと思った。

事務局

管理職を増やすというのは、国も目標を掲げて取組を行っているので、そういった前提で作られた調査票になる。管理職を増やすための取組を前提にした調査になるので、増やしたいと思う理由は今回入っていない。

委員

国の取組があるなら、それを踏まえて数値基準とか、設定になるのかも知れない。この 10%の数値設定は県の男女共同参画計画の数値目標として入っているということか。計画のグラフで平成 29 年は 17.3%と書いてある。10%の基準はどれを見た結果なのかと思った。

事務局

10%の数字については改めて確認させていただきたい。

委員

調査票自体は、結構難しくて細かく聞いてある。飯塚市の事業所にどれぐらいの範囲でこの調査をかけるのか。事業所でも従業員が500人以上とか1000人以上とか、これほどの質問を受けられる事業所がどれぐらいあって、小さい事業所、そういうところの管理職、今回は社長に基本的に回答してもらおうと思うが、それは大変かなと思った。

また、事業所にこの調査をして、それをどのように次期計画に反映していくのかと思った。全事業所なのか、事業所大中小みたいな形で選んでどれぐらいずつ出すのかという基礎的なことを知りたいと思う。

事務局

今回の調査票は5名以上の従業員を雇用する市内の事業所にご協力をいただく予定になっている。飯塚商工会議所、飯塚商工会、飯塚医師会の協力を得て、1000の事業所を抽出させていただく。調査結果は、来年度、第3次のプランを策定するので、女性活躍推進計画に係る箇所に反映していけたらと思っている。前回、5年前も同じ方式で、1000の事業所に調査を行っている。

委員

細かいことだが、字体が揃っていない箇所があるので、揃えた方が見やすいと思う。

委員

この事業所調査はアトランダムに調査されると思うが、アンケートが返ってきて分析して、課題や成果、今後の方向性をまとめた結果はどのように事業所に返すのか。事業所はそれを大いに活用して今後の社会活動に、また市民や国民のために一致団結して男女共同参画に生かしていきましようというのが目的であると思うから、そういう方向性はあるのか尋ねたい。

事務局

調査票を集計して、調査結果として1冊の冊子にまとめる予定としている。しかしその冊子を調査に協力していただいた事業所に配布するということはしていない。方法としてはホームページ等で公開することと、概要版を作成する予定なので、それを公表していると

いう状況である。

委員

基本的にはフィードバックはホームページでとのこと。あとはフィードバックを個別には行わないが、商工会議所等を通してホームページに公表しましたということをお知らせして、そこから事業所へ周知していただくというというのは簡単にできるのではと思う。

事務局

冊子を何冊か作るので、ご協力いただいた商工会、商工会議所、医師会にお届けし、あとはホームページでの公表という形にしたい。

委員

12 ページの間 24 女性のパートタイム労働者に適用されるものすべてに○をつけてもらうが、選択肢「6. 就業規則」というのは労働基準法上では当然であるので、例えば社会保険というふうに変えるのはどうか。

事務局

就業規則については、私が調べた範囲では、常時 10 人以上の労働者を使用するところは就業規則を作成し行政官庁に届け出をしなければならないというところだった。今回は 5 名以上の事業所への調査ということで、就業規則を制定していないところもあるのではないかと考えた。

委員

そういう意図であればよいと思う。

委員

問 25 女性のパートタイム労働者の活用方法で、選択肢に「使っていきたい」という言葉を使っているが、この言葉に抵抗があったので、「活用していききたい」と変えていただければと思っている。

事務局

修正させていただきたい。

委員

ほかに質問、意見がなければ、これで締めさせていただく。

その他に行く前に、事務局から議題を一つ追加したいということで申し出がっているため、議題 3 として、令和 7 年度提言書についてを追加したい。

(3) 令和 7 年度提言書について

事務局

飯塚市男女共同参画推進委員会では、第 2 次飯塚市男女共同参画後期プランの進捗状況についての現状の検討を踏まえ、本市男女共同参画の一層の推進に向けて、市長に対して提言をしてきた。令和 7 年度、提言を実施するか等について委員の意見を伺いたいと思い、意見書の様式等を配布した。

意見書の様式ではまず、令和 7 年度末に提言を実施すべきかどうかについて、ご意見を伺いたい。次に提言を実施不要と選択された方は、その理由をその下に記入していただきたい。

次に、提言の要件については、令和 6 年 3 月に示された提言は、提言書の策定にあたり三つの要件を定めていた。

1、おおむね 3 点に絞ること、2、市が実施の検討を行える内容であること 3、現時点で目標が達成されていない事項であること。

特に意見がなければ、引き続き三つの要件に沿って進めていきたいと考えるが、この要件についても意見をお願いしたい。

委員

今回は、その提言の内容があまり多すぎるということで、審議会で話し合っ提言を三つだけにまとめた。記憶が曖昧であるが、要件の一つが私の記憶と違うような気がする。

委員

要件の一つである「現時点で目標が達成されていない事項であること」とあるが、目標が達成されていない項目は何を見て判断するのか。

事務局

プランの進捗状況管理表を前々回の会議で配布した。あとは今回配布した令和 5 年度提言書に各課の回答がある。提言を実施する場合は、今までの資料で目標に達していないという項目が多々あると思われるので、その中から今回の提言の項目を検討していただきたい。

委員

この目標は数値目標だけでなく、文章でこういう取組をすることとなっているができていないものも含めるのであれば、それも提言の要件3として該当すると思われる。

委員

前回の資料で市が取り組んでいるものの中で目標数値に達していないものを提言するということだが、提言を出すか出さないかを今聞かれており、出さないという選択肢もある。出すということであれば、2の提言の要件について回答することになると思うが、そこを詳しく説明してほしい。

事務局

2の要件については、基本的に前回は提言を実施するにあたり要件を三つとしていたので、要件を加える、もしくは変更するという意見があれば記載していただきたい。具体的な提言の内容については次回またご意見をいただきたいと考えている。

委員

今までの提言書は、ホームページに掲載されているのか。

事務局

掲載している。本日配布した提言書は令和6年3月に作成されたもので、一つ前の令和4年3月の提言書も掲載している。

委員

令和4年の提言書は網羅的にいろんなことについて書いてあった。それも一つの方法だが、多すぎてどこに力を入れているのかわからなかった。また、市長に対して提出する時に、市長が出来ないこと（市が実施の検討を行える内容ではないこと）について記載しても、市長からなかなか変えられないと回答されるのであれば、市長が出来ること（市が実施の検討を行える内容であること）に対してもっと力を入れてもらえるよう書いた方が良いということで要件を絞ることになった。前回はそういう経緯で提言の内容が3つになった。

事務局

書き方など不明な点は、事務局に尋ねてほしい。

	(4) その他（報告事項） 事務局 次回の第４回推進委員会は９月１８日木曜日 １４時から １６時を予定している。 質疑等なし
	<当日配布> 本日の次第 1-1 市民意識調査票 1-2 市民意識調査票比較表 2-1 女性の労働状況に関する事業所調査票 2-2 女性の労働状況に関する事業所調査票比較表 ・令和５年度「第２次飯塚市男女共同参画後期プラン」進捗状況に関する提言書 ・提言書に関する意見書、返信用封筒
公開・非公開の別	① 公開 2 一部公開 3 非公開 (傍聴者２名)
その他	